

第17回つくばみらい市長杯軟式少年野球大会 香取市予選大会 要綱

1. 趣旨

本大会を通じて、少年少女の、スポーツを愛し、楽しみ、相互が協調・調和できる心と、総合的な運動による身体の健全な育成を図り、各チームの伸展に寄与すると共に、軟式野球の普及に努める。

我が国初の実測日本地図作成にかかわった伊能忠敬と間宮林蔵のゆかりの地である香取市とつくばみらい市が、平成30年1月19日に「友好都市協定」を締結したことから、未来を築く少年少女の交流を通じ友好関係の更なる推進を図る。

2. 主催 香取市スポーツ少年団

3. 後援 香取市スポーツ協会

4. 主管 特定非営利活動法人 水郷軟式少年野球協会

5. 期日 令和 5年 9月24日(日)、10月1日(日)
予備日 10月7日(土)、8日(日)

6. 集合・受付 午前7時30分

7. 集合場所 香取市与田浦運動広場

8. 試合開始 午前9時00分

9. 試合実施球場 香取市与田浦運動広場A、C

10. 表彰 優勝・準優勝 賞状

11. つくばみらい市長杯出場権 優勝チーム

12. 審判員

- ① 各チーム2名の審判員を帯同すること。(1名は球審経験者であること。)
- ② 審判服を着装すること。
- ③ 担当する試合は、組合せ表に記載の審判担当表による。
- ④ シート番号の若いチームが球審及び2塁、他チームは1塁及び3塁を担当する。

13. 記録員

- ① 各チーム1名の記録員を帯同すること。
- ② 自チームの試合時、対戦相手チームの記録員と協力し、実況アナウンス及び得点並びに試合経過を記録する。

14. 諸注意

- ① 登録選手の変更は、組合せ決定後は認めない。
- ② 試合中の選手への指示は、ベンチ入りした監督及びコーチに限る。
- ③ 大会中の怪我等事故については、各チームで責任を負うものとする。
- ④ 試合の進行については、球場責任者及び球場責任審判員の指示に従うこと。
- ⑤ 試合会場は公共施設を借用しているため、会場内は全て禁煙とする。ベンチ内も同様とし指導者等が喫煙目的でベンチ外に出た場合は、退場扱いとし再びベンチに戻ることは出来ない。
- ⑥ 止むを得ず不参加となる場合は、早急に事務局へ連絡すること。

15. 大会事務局

事務局長 鎌倉徹也

〒287-0066 香取市堀之内2112番地

tel: 090-1500-5534

mail: tkamakura555@gmail.com

16. 大会規則(次ページの北総地区少年野球連盟大会特別規則とする)

北総地区少年野球連盟 大会特別規則

1. ベンチ入り人員は、登録された代表者（私服）、監督（背番号30）各1名、コーチ（同28. 29）2名、スコアラー（私服）1名、及び介護員（保護者）2名以内と、主将（同10）、主将以外の選手（同0～27）の9名以上20名以内とする。
* 連合チームの参加について：部員数が8名以下（1・2年生は除く）のチーム同士の場合は連合を認める。連合は選手数の少ないチーム同士数チームでも可能とする。
連合チームの中の1チームの部員数が8名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合、その連合チームの選手登録は救済処置として認める。ただし各地区の会長を経由して本連盟会長の承認を得ることとする。
2. 同一チームのユニフォーム、アンダーシャツ、帽子、ストッキング（アンダーソックス着用）は全員統一されたものでなければならない。但し、連合チームの場合は、所属チームのものでも可能とする。※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。
3. ヘルメットは打者、次打者、ベースコーチ、走者、ボールボーイ（シートノック時）共に両側にイヤラップの付いたものを必ず着用すること。金属バットはJ S B Bのマークの付いた公認のものに限る。
4. 捕手は、ヘルメット、レガース、プロテクター、マスク（SGマーク付き及びスロートガード付）、ファールカップ（女子選手は除く）を着用すること。
5. 投手の守備を除く選手（打者、守備）の手袋の使用は認める。
6. シートノックは、5分以内とする。
7. 試合は6回（低学年大会は5回）で勝敗を争う。尚1時間30分（低学年大会は1時間15分）に達したら新しい回には入らず、その時点の得点をもって勝敗を決する（決勝戦も同様）。同点の場合は直ちに『特別延長戦』を行う。
また同一投手の投球制限は1試合4イニング（特別延長も含めて12アウト・低学年大会は3イニング9アウト）とする。同日に同一チームが2試合実施する場合、1試合目に4イニング（低学年は3イニング）投球した投手の2試合目の投球制限は3イニング（9アウト）（低学年も同様）とし、1日の投球回数の合計は7イニング（21アウト）（低学年は6イニング18アウト）までとする。ただし、大会日程上、対戦チームの一方が当日の初戦、他方が2試合目となった場合、当該試合の投手の投球制限は両チームともに4イニング（12アウト）とする。
なお、低学年大会に限らず4年生以下の投手の投球回数は3イニング（特別延長も含めて9アウト）とする。
8. 『特別延長戦』は一死満塁から行う。打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は順次前の打者とする。三死迄行い各1イニングで得点の多いチームの勝ちとする。尚、勝敗が決しない場合は更

にこれを繰り返す。

9. 『特別延長戦』は最高2回迄とし、勝敗が決していない場合は抽選で勝敗を決定する。ただし決勝戦に於いては繰り返し行う。特別延長選中の日没・降雨については、決勝戦は再試合、他は抽選とする。
10. 『特別延長戦』出場選手の交代は許される。
11. 各チームは1日2試合迄とする。
12. コールドゲームは、3回均等回終了以降得点差が10点及び4回均等回終了以降得点差が7点以上（低学年大会は3回均等回終了後以降10点差以上）となった時に適用する。
13. 日没・降雨によるコールドゲームは、4回（低学年大会は3回）終了後適用する。4回（低学年大会は3回）終了前の場合は継続試合とし、翌大会日第1試合に実施するものとする。ただし、決勝戦は再試合とする。
日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
14. コーティシーランナー（臨時代走）を認める。
15. ベンチは、組み合わせ番号の若番が1塁側で、先攻・後攻はトスとする。
16. 抗議権は、監督（ファールライン以内）及び当該プレーヤーとする。
17. 監督が投手の所へ行く回数の制限は、公認野球規則を採用する。尚、監督が投手のもとへ行く場合にマウンド迄の往復は駆け足を励行する。
18. 控え審判員を採用する。
19. メンバー表の提出は、大会本部へ試合開始40分前に監督、主将が3部（放送する場合は4部）持参してトスと球場等の諸注意を確認する。
20. メンバー表の氏名欄へは、当該メンバーの学年を記載すること。
21. 理由なく試合開始時間（15分猶予）迄に会場本部に到着していない時は、試合を放棄したものとする。
22. タイムの回数は守備、攻撃側共に3回以内『特別延長戦』は1イニングに1回とする。
23. 大会規則は『大会特別規則』を除く他は、最新の『公認野球規則』及び『競技者必携』を適用して実施する。
24. 試合球は、全日本軟式野球公認J号を使用する。

北総地区少年野球連盟
会 長 岩 舘 晃
審判部長 村田直樹
令和5年3月12日一部改正